

松代地震観測所の地震解析業務の移管について

気象庁の松代地震観測所（長野県長野市）は、主に海外の遠隔地で発生する地震の観測・解析を行っており、その結果を気象庁本庁に伝送し、気象庁が発表する地震や津波に関する情報に活用しています。

今般、気象庁の地震処理中枢システムの更新により、当該観測所で行っている地震解析業務を気象庁本庁で実施することが可能となりました。このため、平成28年4月1日より当該業務を気象庁本庁で行うことといたします。

また、松代地震観測所における地震観測は継続しますが、地震解析業務の移管に伴い、職員の常駐は終了します。そのため、松代地震観測所の施設や観測機器の維持管理、その他関連する事務については、長野地方气象台に新たに職員を配置し、対応いたします。

気象庁では、引き続き迅速かつ的確な地震津波情報の提供に努めてまいります。

松代地震観測所の沿革

西暦	年号	月	日	概要
1947	昭和22	5	1	中央气象台松代分室を長野県埴科郡西条村3511番地に設置
1948	昭和23	2	13	中央气象台松代地震観測所と改称
1949	昭和24	6	1	地震観測所と改称
1965	昭和40	8	1	世界標準地震計による観測開始
		8	3	松代群発地震始まる
1967	昭和42	2	8	松代地震センター が設立され、事務所が地震観測所に置かれる 総理府、科学技術庁、文部省、運輸省気象庁、農林省、通商産業省、建設省、長野県による協議体として発足
1984	昭和59	4	1	群列地震観測システムの運用開始
1995	平成7	4	1	気象庁地震火山部地震津波監視課精密地震観測室と改称
2003	平成15	7	29	インターネットを通じて入手した地震計データによる遠地地震震源決定システム(LISS(Live Internet Seismic Server)システム)の運用開始
2014	平成26	4	1	気象庁地震火山部地震津波監視課松代地震観測所と改称